



基本的な考え方／目標と実績

基本的な考え方

生物多様性の保全は、地球温暖化対策と並ぶ重要な環境課題とされています。1993年に発効した国連の「生物多様性条約」に基づき、世界規模で取り組みが進められており、2010年10月には、名古屋市で「第10回生物多様性条約締約国会議(COP10)」が開催される予定です。

日本では、2009年8月に企業など民間部門の取り組みを促進すべく「生物多様性民間参画ガイドライン」が制定されました。コニカミノルタでは、この「生物多様性民間参画ガイドライン」に沿って、生物多様性の保全に向けた取り組みを進めています。

具体的には、事業活動における生物多様性への依存度と影響度を評価し、影響度の高い項目から重点的に取り組むとともに、自社技術・製品など自社資源を活用した取り組みを実践していく予定です。

2009年度の目標と実績

生物多様性への依存度と影響度を評価し、取り組み計画を策定していきます。

生物多様性の修復と保全に貢献するための第一歩として、2009年度には、WBCSD(世界経済人会議)が発行する「企業のための生態系サービス評価(ESR)」などのレビューを行い、事業活動における生物多様性への依存度と影響度を、製品ライフサイクルの段階ごとに評価しました。その結果、情報機器事業(複写機、デジタル複合機)における紙使用による「木材およびその他の木質繊維」への影響や、事業活動で生じるCO2排出による「地球規模の気候の調節」への影響が大きいことがわかりました。

こうした評価結果を踏まえて、まず、販売用紙の調達基準を見直しグローバルに運用するとともに、さらに検討を行って生物多様性保全の取り組み計画を立案し、順次活動を開始する予定です。

2009年度の目標と実績

テーマ	2009年度目標	2009年度実績	達成度
生物多様性への対応	現状確認と計画策定	事業活動との関連性評価 計画策定	○

紙の調達基準

環境に配慮したコピー用紙を調達する基準を定めています。

情報機器の日本の販売会社であるコニカミノルタビジネスソリューションズ(株)は、お客様に供給するコピー用紙について、森林破壊・劣化による動植物や住民の生活環境への影響に配慮して調達することを定めた「PPC用紙購入基準」を策定し、2007年度から運用しています。

2010年度には、グローバルな視点で用紙調達基準を見直し、森林資源の持続可能性を確保していきます。